

# 三重県における AIを活用した児童虐待支援 システムの導入について

三重県児童相談センター



# 平成24年度死亡事例検証

	桑名(8月)	四日市(10月)
提言 児童相談所の課題、	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>危険度の査定</b>を含めた 職員の専門性向上<ul style="list-style-type: none"><li>・ 乳児の脆弱性に関する 認識の向上</li><li>・ 精神疾患を持つ保護者に 関する知識の向上</li></ul></li></ul> 等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 児童相談所の専門性の 飛躍的向上<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>安全確認の方法・技術</b>の向 上</li><li>・ 一時保護の組織的対応力 の向上</li></ul></li></ul> 等

# 虐待対応のポリシー

(リスクアセス検討の前に決めた三重県方針)

## ①児童の安全にフォーカスする

児童の安全 > 保護者との関係性維持

## ②児相が間違っははいけないという概念を外す

× 確信がなく保護しなかったため児童が死亡

○ 結果的に保護は必要なかった、と後に判明

## ③保護者が加害者であるかどうかには固執しない

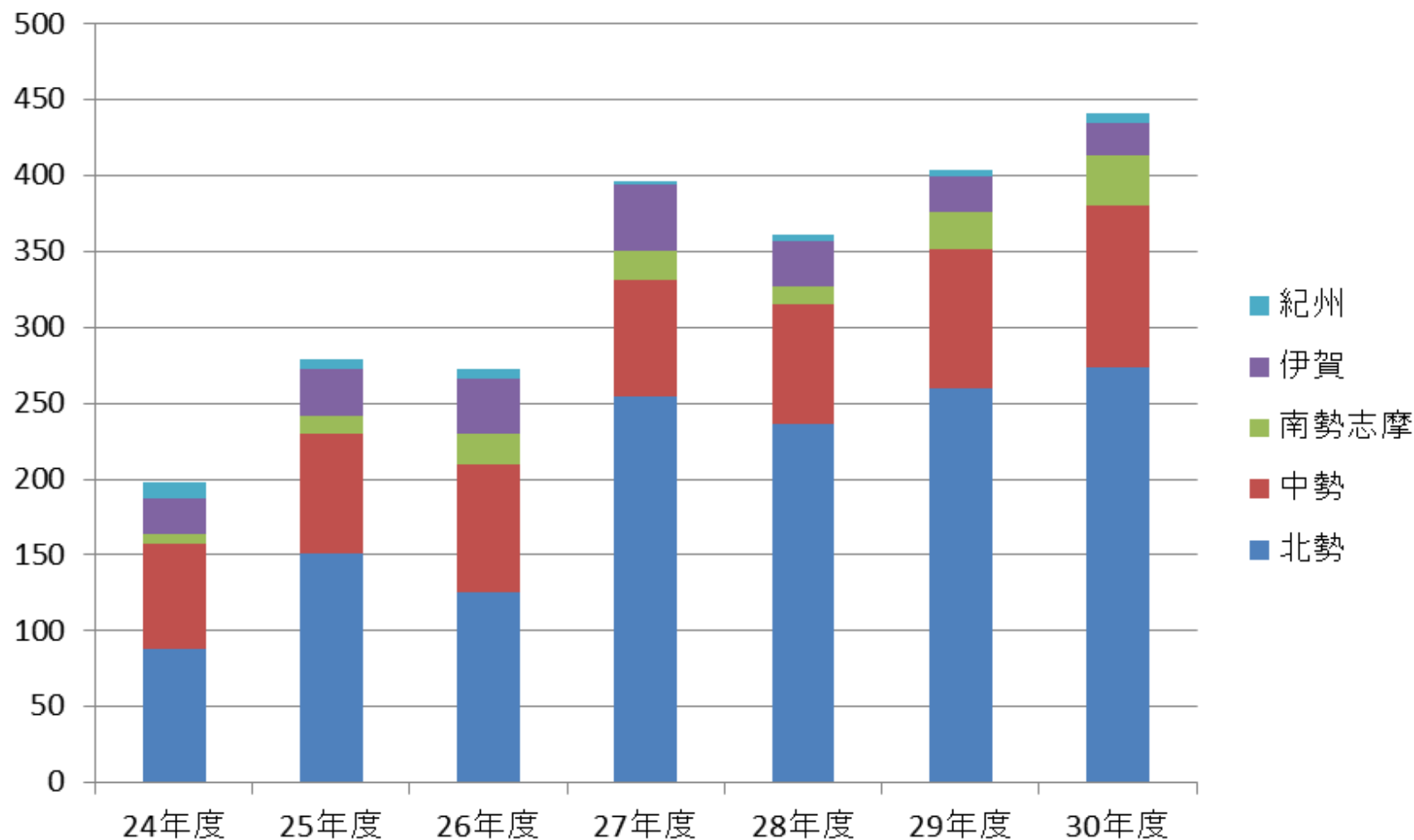
× 保護者の加害責任に焦点

○ 保護者の子どもへの安全責任に焦点



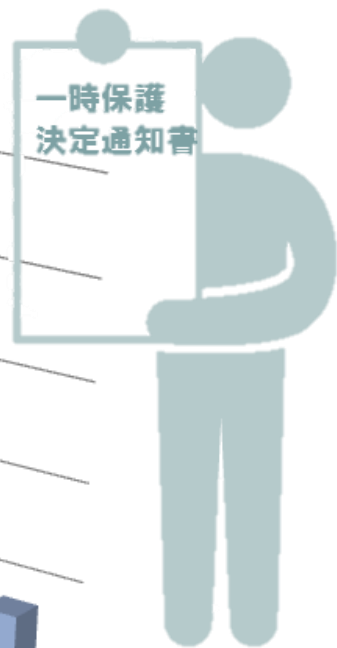
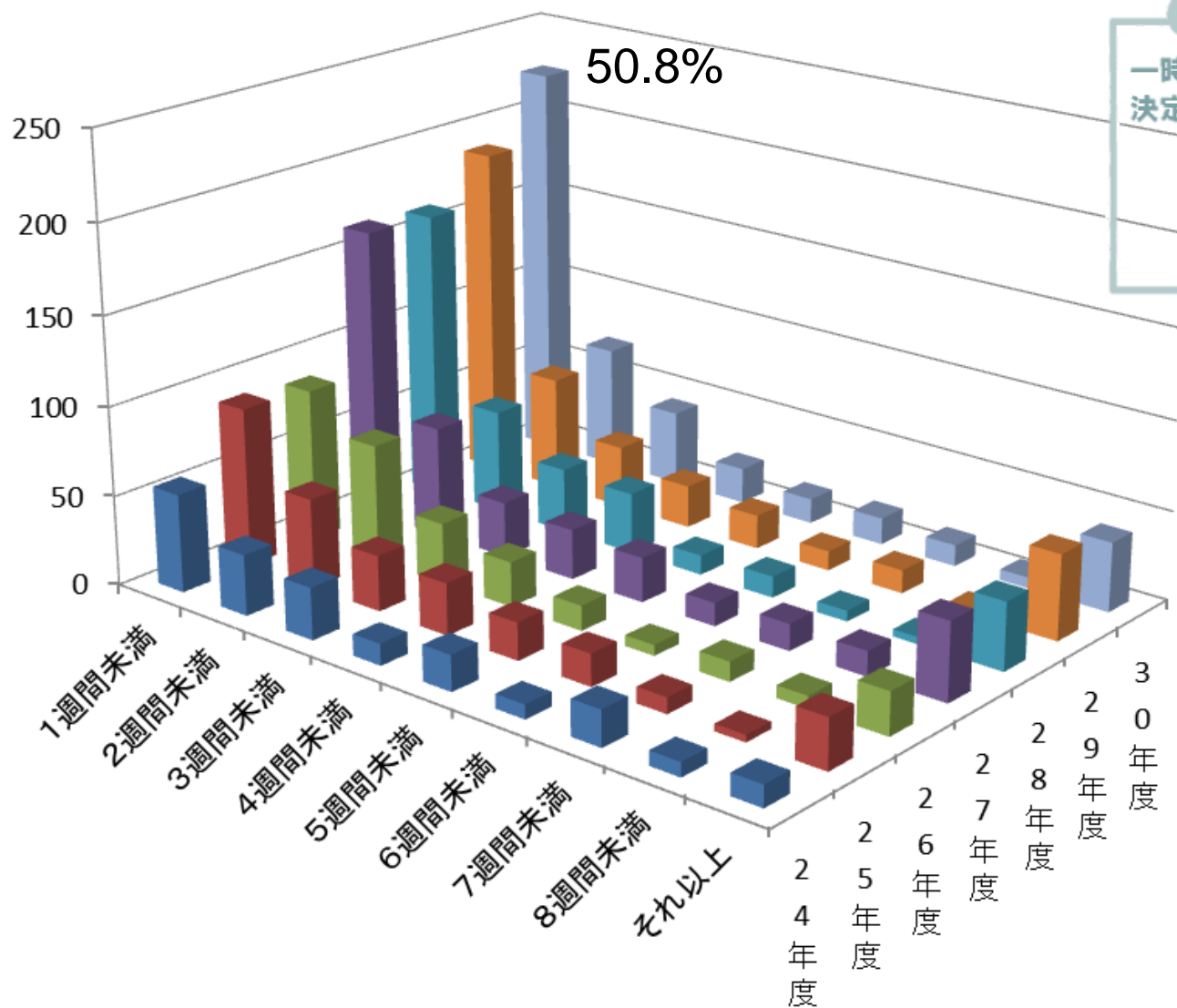
# 虐待を主訴に

## 緊急一時保護を行った子どもの数



三重県全児相

# 虐待を主訴に緊急保護した児童の 保護日数推移(三重県全児相)



# AIを活用した児童虐待対応システム

## ○リスクアセスメントツールを活用した分析で得られた知見

- ・ 本県において平成26年度からリスクアセスメントツールを活用したことにより **約6,000件のデータが蓄積**され、様々な分析を実施

### 再発率との関係

以下の場合、三重では再発率が上昇

- 過去に通告歴がある
- 保護者が若い
- 首から上の傷あざ

### 一時保護の効果

- ・ データ分析によると一時保護によって虐待再通告率が**低減する**と判明
- ・ 平成29年度の一時保護に占める緊急保護の割合が平成24年度に比べ **約25ポイント増加**

緊急保護をためらわない意識が職員の間で浸透

AI技術を導入してこれまでの知見を活用

令和元年7月から三重県をフィールドとした実証実験を開始

# AIを活用した児童虐待対応システム

## ○令和2年7月から三重県内の全ての児童相談所で運用を開始

- ・実証実験の結果業務の効率化、情報共有の時間短縮や判断へのサポート効果が見込めることが分かったため、当該システムを搭載したタブレットを児童福祉司等の職員に配布

### システム導入の成果

- ①対応の迅速化、業務の効率化
- ②判断の質の向上
- ③人材育成

### 課題と今後の取組

- ・AIの判断とベテラン職員の感覚の違いの分析
- ・データの蓄積による精度の向上